

# 南浦和中だより

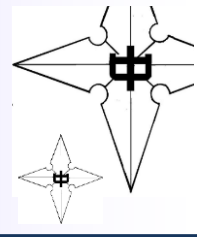
〒336-0026 さいたま市南区辻 6-1-33

TEL 048(863)0753

FAX 048(836)1589

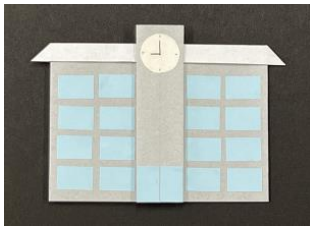
さわやか相談室直通

TEL 048(837)5909



## 『人として』

校長 おお ころ うち のり かず  
大河内 範一



私が小・中学生だった頃、教師が主人公のドラマがけっこう流行っていた。その中でも印象的だったのが、中学校を舞台にした『3年B組金八先生』である。

海援隊というバンドのボーカル・武田鉄矢が中学校教師を演じ、クラスで勃発するあれこれの事件や、学校現場が抱える悩ましい問題に真正面からぶつかっていく。そして、そんな先生の姿に心を打たれた生徒たちが、自分の考えを改め、人として成長していく様子も描かれているのである。

このドラマは第8シリーズまで続いた。若手だった金八先生が、経験を積み、年を重ね、教育委員会に異動したかと思えば、再び学校に戻ってきて教壇に立ち、最後は定年を迎え退職するまで描かれるという、壮大なヒューマンストーリーになっている。

生徒役を演じた俳優たちが、後に人気芸能人になったのも話題になった。たのきんトリオや三原順子（昭和だ…）を皮切りに、亀梨和也、風間俊介、上戸彩などなど。

先日、You Tube のショートムービーをなんとなく眺めていたら、金八先生の名セリフが編集された動画が流れてきて、つい見入ってしまった。弱音を吐く教師たちを前に、金八先生が熱く思いを語る場面だ。以下、そのセリフを文字起こししてみた。

**教師というものは、生徒に学びながら進むほかに道はない。**

生徒の嘘、裏切り、学力不信、無気力・・・

その原因がどこにあるのか？ それを探りながら自分の腕を磨く、教育技術を磨く。でなければ、人から先生と言われる資格なんかない。

1回や2回の失敗で教師を辞めると言うんだったらね、

私は何回も学校を辞めてるよ、教師を辞めてるよ。

教師がやる仕事というのはね、明日、明後日に結果が出る商売じゃないんだよ。

10年後、20年後・・・、中学校を卒業した教え子が、夜道を歩きながら、

「先生があの時言っていたのはこういうことだったのか」と分かった時に、

初めて我々の授業は終わるんですよ。その時に初めて終業のチャイムが鳴るんです。

このセリフを聞いて、自分が担任だった頃の指導は本当に正しかったのか、自分の教員人生はどうだったのか、改めて振り返る機会になった。反省すべき点は山ほどあるし、あの時こうしていればという思いも尽きない。自分もまだまだだなど痛感する。

2年生は、未来くるワークを通して、「仕事」というものを体験してきた。そして3年生は、いよいよ進路を選択する時期に突入した。人生の設計図を描くことは簡単じゃないけど実は面白い。迷いながら、立ち止まりながら、前へ前へと進んでほしい。